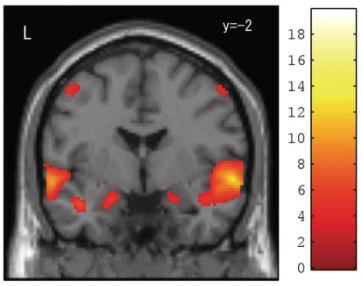
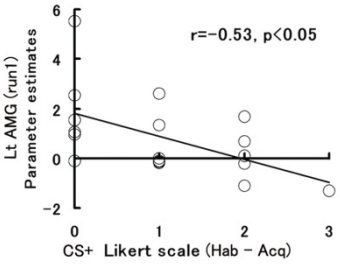
相手の顔に対するネガティブな印象形成の脳反応を計測！

見知らぬ相手から不快な言葉をあびせられた時には、その相手に対する悪い印象が形成されます。その場合の脳内反応には、扁桃体と内側前頭前野の活動が関係していることが fMRI で証明されました。計画班員の飯高哲也准教授（名古屋大学　大学院医学系研究科）らが、Social Cognitive and Affective Neuroscience 誌に発表しました。

Forming a negative impression of another person correlates with activation in medial prefrontal cortex and amygdala, Tetsuya Iidaka, Tokiko Harada and Norihiro Sadato
Soc Cogn Affect Neurosci (2010), doi: 10.1093/scan/nsq072, published online: August 6, 2010
http://scan.oxfordjournals.org/content/early/2010/08/05/scan.nsq072.abstract

顔と同時に不快な音声（「ばかやろう！」という声）を提示した場合には、音声を提示しない場合よりも両側扁桃体が有意に強く活動します（上図）。これは声の持っているネガティブな感情成分の影響であり、この領域において相手の顔と情動反応が結合するものと考えられます。次いでこの領域から信号変化を取り出し（下図縦軸）顔に対する印象の悪化の程度（同横軸）との関係をみると、両者には有意な相関関係がありました。この結果は日常生活において、扁桃体の活動が相手から受けるネガティブな印象形成に中心的な役割を持っている可能性を示唆しています。





名古屋大学　大学院医学系研究科　飯高哲也
連絡先：iidaka@med.nagoya-u.ac.jp